

講 師 遠藤 聰

演 題 「遺産をめぐる旅」



略歴

昭和 22 年富山市生まれ
 昭和 48 年東北大学大学院工学研究科建築学専攻修士課程修了と同時に(株)地域計画・建築研究所(京都)に入社
 昭和 57 年に(株)国土開発センター入社、(財)地域振興研究所理事、(株)国土開発センター富山支店理事
 平成 19 年から(株)上智 事業本部技師長
 その間「富山県コロンブス計画」のコアグループで活躍された他、国土庁の「地域振興アドバイザー」や、観光戦略会議などの行政の各種委員会委員を多数務める。
 一級建築士、技術士(建設部門 都市及び地方計画)

只今ご紹介いただいた遠藤です。今日はまちづくりがテーマということで、自分の好きなものと絡めた方が話が乗るだろうと思い、遺産をめぐる旅とさせていただきます。座って失礼します。



1. 旅が大好き

私は旅が大好きで、青春 18 きっぷを使って全国を旅してきた。昭和 63 年から 20 年ほど続いた制度の国土交通省の「地域振興アドバイザー」として全国各地に派遣された。1992 年 2 月に 47 都道府県宿泊を達成した。最後の県は佐賀県。佐賀市のビジネスホテルに泊まるのはつまらないので、唐津の洋々閣に泊まった。2012 年 12 月に 65 歳になり、ジパング倶楽部に入会。カメラやビデオの撮影も好きで、フェイスブックに【一日一景】を設け、気に入った写真を紹介している。趣味で旅の記録を紀行文や DVD にし、娘や同好の士に見せている。

2. 旅行写真の紹介

厳選して 4 つだけ紹介。

① 柳川川下り・土木遺産巡り

昨年 12 月、65 歳になったのを記念して柳川の川下りと九州の土木遺産巡り。高齢者仲間入り記念夫婦旅行。柳川の藩主の別荘として建てられた歴史的な建築物「御花」に宿泊。レンガ造りの 4 棟連続した倉である「並倉」

は現在でも味噌や醤油の醸造所として使われている。

筑後川昇開橋は土木遺産にもなっており、昔の JR 佐賀線の鉄橋。船の航行を可能にするために橋の中央部が上がるようになっている。本来は中を通ることができるが、行ったときは改装工事中でだめだった。

次は熊本県の山都町にある有名な通潤橋。春先になるとアーチの頂上から水が流れ、水と石が二重にアーチを描く。農業用で、布田(ヌノタではなくフタと読む)保之助という人物(当時の地主)が、私財をなげうってこれをつくった。



次は大分県の竹田市の山奥にある、日本一美しいといわれる白水ダム。大分県の県庁の技師が設計したもので、水がレース状に落ち、それを「転波」というらしいが、美しい。

近くにあった音無川の円形分水も見に行った。土木遺産に選ばれているが、富山の方が上。魚津の片貝川右岸にある東山円筒分水は、円筒分水ドットコムという同好の士のサイトで、日本一美しい円筒分水と評されている。円筒分水ファンの間では非常に有名。



「日本一美しい」と言われる白水ダム



音無川円形分水

ちなみに右は、片貝川右岸魚津市の「東山円筒分水」

「円筒分水ドットコム」では、「日本一美しい円筒分水」と評されている



② いたち川下り・牛島閘門・環水公園

川下りで乗ったのはEボートで、10人乗りのカヌーのようなもの。延命地蔵の少し上流のほうから出発。ショートコースとロングコースがあり、ショートコースは50メートルほど先で陸に上がってしまうが、1日2便のロングコースに乗った。日頃見る景色とは違い、いろんな発見がある。

途中堰で座礁し、待機していた陸上班にボートを押ししてもらい脱出した。牛島閘門はふつう使われておらず、県の管理当局に聞いたところ動くかどうか分からないと言われたが、なんとか動かしてもらった。県や市、ツアーの企画者の並々ならぬ努力のおかげだ。私にとっても歴史的な瞬間だった。

ボートは10人乗りだが2人専門家が乗るのでお客さんは8人だけ。東京のある人にこれを見せたら5万円払ってでも乗りたいと言っていた。



歴史的な瞬間です



上流側の扉を撮影中



下流側の扉が開き始めた



いざ環水公園へ



後ろにはランチランス



天門橋からの俯瞰



スタバの前をボートが行く



記念撮影

スタッフが2名乗るので乗客は8名

② 12.10 いたち川下り・牛島閘門・環水公園



これがEボート(10人乗り)



第1便出航(TV取材)



いたち川を下る



堰で座礁



ボートを押しして脱出



牛島水門をくぐって牛島閘門へ



閘門上流側の扉が開まる



閘室に閉じこめられた

③ 九州視察

民泊と空き家活用がテーマ。松浦市は長崎県でも民泊で有名なところで、そこにお世話になった。次の日はそこで蕎麦打ち体験をした。

小値賀は同じく長崎県の五島列島の入口にある島で、佐世保から船で1時間かかるような交通のあまりよくない島だが、ここも民泊を盛んにやっている。漁師さんの家なので、魚がこれでもかというくらい出てきて、大変おいしかった。

一時は炭鉱があり、捕鯨基地にもなりにぎわったらしいが、どんどん人口が減り空き家が増えた。藤松家には専用の埠頭まであり、地元のNPOが古民家レストラン藤松としてオープンしている。同じようなものは全部で5か所くらいだったと思うが、NPOが取得し、宿泊施設やレストラン、カフェにしている。

これは近藤家を宿泊施設にした写真。

次は港の見えるちょっと小高い丘に建つ

松永家という宿泊施設。

こちらは市街地にある濱田家で、やはり宿泊施設になっている。

これらに従来の民泊と違う客層である大人が泊まるようになってきているのが特徴。

福岡の八女に福島地区というところがあり、空き家の利活用や町並み保存が盛んに行われている。

③09.10 九州・京都視察（民泊・空き家活用）



松浦市で民泊と蕎麦打ち体験



小値賀の民泊(漁家)

藤松家



木立の先には専用埠頭

古民家レストラン「藤松」に



近藤家→親家●屋敷林に囲まれた宿泊施設に



松永家→日月庵●港を臨む宿泊施設に



濱田家→先小路●港市街地の宿泊施設に



八女市福島地区

蕎麦屋に



レストランに

④ 北海道遺産旅

日本三大車窓は善光寺平、鹿児島と熊本の間、そしてこの狩勝峠で、石狩と十勝の間にある。今はもうトンネルになってその車窓は見えないが、その跡を見に行った。

北の屋台村は帯広市で、かつて駐車場だったところを屋台の集合にしている。これがきっかけになり、全国各地に屋台のプロジェクトができていった。

10軒以上のお店があり、4軒の農家が自ら経営している「農屋」に行ってみた。ここでは基本的に自分たちが作った食材を出している。鮮度のいいものを安心して食べられるということでこの店に決めた。席数が少ないので開店直後に入店した。

④08.05 北海道遺産旅



日本三大車窓の一つ「狩勝峠」跡

北の屋台村



農屋あいのり店内

翌日タウシュベツ川橋梁に行った。これは帯広から北へ伸びる今は廃線になっている旧士幌線の橋梁。昭和10年代にでき、非常に物資、特に鉄筋などが無い時代だったので、こういう石とコンクリートの橋をつくった。ダムができ、水位の変化が激しいので通常の10倍の速さで老朽化が進んでいる。あと数年で完全に姿を消しそうな、滅び行く美学を今のうちに見ておかないと見られなくなるという危機感があり訪ねた。

一本上に架かる同じつくりの橋に、音更川第5橋梁がある。こちらは水没しないのでまだ大丈夫。



3. 人はなぜ旅に出るのか

(1) 旅に欠かせない5つの要素

私は地域づくりの手伝いをしているが、最近業界では定住人口が伸びないので交流人口を増やそうとしている。人はなぜ旅をするのかということは避けて通れない問題。人はなぜ旅に出るのか突き詰めて考えることが必要。私が尊敬する金沢大学におられた地井昭夫先生は漁村にはなぜ人が集まって住んでいるのかをテーマに研究された。それと同じように交流人口を増やすためにはなぜ人が旅をするのか考えなければいけない。

旅には欠かせない5つの要素があると考えている。まず1つ目はお金、2つ目はヒマ、3つ目は健康。最近は介護付き旅行商品も出ているので、多少割り引いて考えてもいいが、寝たきりで行くわけにはいかない。4つ目は関係者の了解。先ほどの九州川下りをした時、夫婦で参加したので同居する母親をどうするかが問題になった。色々相談した結果、施設にショートステイすることになった。5つ目は動機。この5つが不可欠だと考えている。

3. 人はなぜ旅に出るのか ～交流人口増のために避けて通れない問い～

(1) 旅に欠かせない5つの要素

- ① お金
- ② ヒマ
- ③ 健康…最近では介護付き旅行商品も
- ④ 関係者の了解…留守宅等
- ⑤ 動機…次項で

(2) 旅の動機

動機には6つある。1つ目は気晴らし。2つ目は癒し。3つ目は研鑽。分野としては知、心、技、体の4つがあると思う。

知は見学、体験、調査等のインテリジェンスを高めるようなもの。心はハート。巡礼や宿坊体験など。技は俳句の好きな人が吟行に行くとか、カメラ好きな人が撮影旅行に行くとか、旅先で腕を磨くというようなこと。体

はトレッキングやスキー、病気治療など。医療観光などといわれるのはこれ。4つ目は貢献。旅先で自らの力を発揮するというもので、東日本大震災などがそう。5つ目は先ほどの研鑽ともかなり重なるが、作品づくり。旅の刺激で作品制作をすること。6つ目は絆・思い出づくり。これは同行者と思い出を作り、絆を深めるだけでなく、旅先でいろんな人と出会い仲良くなることも含まれる。

(2) 旅の動機・・・6つ

- ① 気晴らし…ストレス解消 (スポーツ観戦・外食等)
- ② 癒し…心身リフレッシュ (温泉保養等)
- ③ 研鑽…自分を高める、以下の4領域
 - i) 知…見学、体験、調査等
 - ii) 心…巡礼、宿坊体験等
 - iii) 技…吟行、撮影旅行、趣味仲間旅等
 - iv) 体…トレッキング、スキー、病気治療等
- ④ 貢献…旅先で力を発揮 (災害ボランティア)
- ⑤ 作品づくり…旅の刺激で作品制作
- ⑥ 絆・思い出づくり…同行者や旅先で交流

地域活性化のためにはリピーターを確保する必要がある。どういう条件がそろえばリピーターが来るのか。来てもらうためには期待してもらい、そして期待に応えることができないとリピーターは来ない。資料で赤字のところはリピーターの可能性はないと考えていい。その前提をクリアしたうえで再訪してもらうには5つの要因があると私は整理している。これは逆に考えると分かるが、2度と来てほしくない施設がある。刑務所だ。刑務所は2度と来てほしくないのでことごとく反対のサービスをしている。空間の居心地は決してよくない。感動的な時間もない。もちろん心温まるもてなしなどあるはずもない。リーズナブルな料金であることも大切。最後にもう1つ、未達成感。やり残した、全部できなかったという思いがあれば、また行かんなん、という気持ちにつながる。

この前スターバックスの元CEOの講演があり、聞きに行った。スタバはおいしいコーヒー、快適な店舗環境、そしてパートナー、要するにお店の方々の素敵な笑顔の3つを売り物にしている。1番目と2番目はお金さえかければできるが、3番目だけはしっかり教育しないとできない。再訪の5つの要因と共通するところがあると感じた。

地域振興には一見客でなく**リピーター確保**が不可欠
→来訪の満足をクリアーした上で

↓

(3) 再訪の5要因 (仮説)

- ①居心地のよい空間
- ②感動的な時間
- ③心温まるもてなし
- ④リーズナブルな料金
- ⑤未達成感

期待 評価	大きい	小さい
大変 よい	感激・ 感動	濃い
よい	期待 通り	思いの 外
悪い	期待 はずれ	案の定

*スタバは、①コーヒーのおいしさ、②快適な店舗環境、
そして、③パートナーたちのすてきな笑顔

4. 交流人口を呼び込む秘訣

北陸新幹線もできるので、なるべく多くの人に富山に来てほしいと皆さん考えていらっしゃるでしょうが、残念ながら国内の旅行市場は縮小気味。人口減少以上に旅行する人の数が減ってきている。理由の1つは動機の部分で、旅行よりも安く旅行以外の娯楽ができる。ゲームやスーパー銭湯など。特に若者の旅行離れが深刻で、これは業界にとってはゆゆしきこと。旅を楽しまない人たちの子供たちも旅をしないと、縮小再生産になってしまう。国や官公庁も必死になっているがなかなか決め手がなく、中高年がかろうじて市場を支えているのが実態。

娯楽・気晴らし・癒しから SIT (特別な興味を持った旅へ)・自己実現へと旅行の動機も変わりつつある。時間やお金をかけて旅行をするからにはそれなりの見返りが必要で、感動と未達成感が鍵。地域ならではの本物に触れ、ドラマを伝えることが大切。例えば先の話の通潤橋は、高台で水がないために農業ができなかった場所に水を引きたいと、布田保之助が私財をなげうったというドラマがある。そういうドラマを伝えられるかどうか。ゲニウス・ロキ(地域のDNA)を伝えることが大事。

地域のドラマをきちんと説明できるガイド・インタープリターが決め手となる。出石の堀川妙子さんというガイドに案内してもらった際気づいたのだが、彼女は目に見える景色を説明しない。「お客さん、あと半月遅かったらお寺の参道の桜がトンネルになるんですよ」とか、「お客さん残念でしたね、夕方になるとここのフットライトが淡く点ってきれいなんですよ」と言う。これはもう一回来いということなんだなと思った。

同じ例で中国の杭州に西湖という湖があり、西湖十景があるのだが、季節を限定していて、一度では全部見られない。

つまりリピーターを確保するには「いまだけ、ここだけ、あなただけ」、これをいかにプレゼンできるかにかかっている。

私が城端で仕事をさせてもらった時、街なかを歩いて回るプロジェクトを「歩いて発見！小粋なニッポン」とした。松本・高山・五箇山・城端・金沢といういわゆるシルバールートのルート上にあるのだが、欧米の観光客も増えてくるだろう。日本に一度来たことがある人は、もうゴールデンルートは行かないだろうからシルバールートが注目される。実は「小粋なニッポンを発見したあなたはすごいですね」というメッセージが巧妙に隠されている。

具体的な提案として、1つ目は県民意識の醸成。富山の人は短期滞在の人を旅の人と呼んだりして、あまりおもてなしがうまくない。そういう人がお金をおとしてくれることによって地域経済がまわるのだということを県民がもっと知らなければいけない。地元遺産への関心を高めていくことが必要。

2つ目は建築・土木遺産をめぐる旅の企画・催行。

3つ目はガイドブックの作成。

4つ目はインタープリターの養成。

4. 交流人口を呼び込む秘訣

(1) 国内旅行市場は縮小気味

- 旅行以外の楽しみが急拡大
- 若者の旅行離れが深刻
- 中高年がかろうじて市場を支えている

(2) 旅行の動機が大きく変わりつつある

- 娯楽から **SIT** (Special Interest Tour) へ
- 気晴らしや癒しから「**自己実現**」*へ

*自己の成長+他者への貢献

- 「**素敵**」になるために旅する (自分への投資)

(3) リピーターを確保するには

- 再訪の5要因を充足する
- 特に感動と未達成感が鍵
- 地域ならではの**本物**にふれてもらい、
ドラマを伝える

*ゲニウス・ロキ(地域のDNA)、遺産(広義)を活かす

- ガイド・インタープリターが決め手
- *出石の堀川妙子ガイド/西湖十景

→**いまだけ、ここだけ、あなただけ**

*城端・・・歩いて発見！小粋なニッポン

(4) 具体的な提案…できれば新幹線開業までに

- 県民意識の醸成 (時間がかかるので長期戦！)
 - *地元遺産への関心の惹起→「とやまの近代歴史遺産」等
 - *来訪者を温かくもてなす県民性に
- 建築・土木遺産をめぐる旅の企画・催行
 - *季節・時間・ターゲットを考えた、テーマとコース設定
 - *関係者・縁故者等で試行的に催行
- ガイドブックの作成
 - *一時記録の保存・集積化
 - *ガイドブックの編集
- インタープリター (ガイド) の養成



最後に、射水市の内川沿いに私の娘の旦那がオープンさせた古民家を改装したカフェを紹介させていただきたい。六角形の畳屋が空き家になっていて、たまたま娘たちが内川を散策していて見つけ、ほれ込み中を改造してちょうど1か月前にオープンした。東橋から徒歩0分の場所。日本観光振興協会常務理事がわざわざ見に来てくださった。

前のオーナーが絵葉書を集めるのが趣味でいっぱい出てきた。「高岡市新湊町荒屋 渋谷繁男」と書いてある封筒の中に、「更正の街」という絵葉書があった。これがどこののか、徐々にわかってきたところ。このように内川・新湊の街歩きをする拠点、ドラマが語れるカフェとして準備している。

富山ならではの遺産やそこに込められた思い・ドラマをもっともっと知ってもらって、郷土を誇りに思う県民と富山大好きファンを増やしていきたいものです。最後までどうもありがとうございました。



開店準備をしていたら「新湊名所」という絵葉書が出てきて、その一枚が更正の街(街路整理せる新湊町荒屋橋詰)

葉書が入った封筒口は高岡市新湊町荒屋 渋谷繁男

- 3つの謎
- ①新湊は高岡市だったのか？
 - ②更正の街とはなぜ ここはどこ？
 - ③荒屋橋とはどの橋？

六角堂はカフェにとどまらずまちあるき・まち育ての拠点！



5. おわりに… UCHIKAWA六角堂 (PR)

